

У НАС В УНИВЕРСИТЕТЕ の構文と В НАШЕМ УНИВЕРСИТЕТЕ の構文の選択に影響を与える要因

青 木 正 博

要 旨

ロシア語の *у нас в университете* “私たちの大学で” の構文（「*у* + 生格の構文」）と *в нашем университете* “私たちの大学で” の構文（「生格の構文」）の選択に影響を与える要因について調べるために、文学作品や会話の教科書の例とインフォーマント調査の回答を分析した結果、以下のような要因が見つかった。

A) 「*у* + 生格の構文」が選択される傾向がある要因：

- 1) 会話の部分
- 2) 場所を表す固有名詞
- 3) 指示代名詞が場所を表す名詞を修飾

B) 「生格の構文」が選択される傾向がある要因：

- 1) 性質形容詞が場所を表す名詞を修飾
「動詞が表す動作」、「活動体性の階層」、「関係形容詞が場所を表す名詞を修飾」、「場所の所有構文」がテーマ（あるいはレーマ）の部分に入る」という項目は2つの構文の選択に影響を与える要因とは認められなかった。

実際の使用においては、「場所の所有構文」は上に挙げた要因の影響を受けずに使われることが多く、2つの構文がともに使われる文脈がかなりの割合で存在すると考えられる。

キーワード：ロシア語、所有構文、場所、外的所有、分裂所有

1. はじめに

ロシア語では、場所を表す名詞の所有者が1) の例のように前置詞 *у* + 名詞や代名詞の生格によって表される場合と、2) の例のように所有代名詞、あるいは3) の例のように名詞の生格によって表される場合がある。

- 1) *Председатель был у себя в кабинете один.* (Рас)

“議長は自分の部屋に一人でいた”

- 2) *Сижу, бывало, в своем кабинете и думаю — я это или не я.* (Вам)

“自分の事務室に座って、これは俺なのか、俺ではないのかと考えることがよくあった”

- 3) *Он поместился в кабинете покойного наверху...* (Мас)

“彼は階上の故人の部屋に落ち着いた...”

本稿では1) の例の *у себя в кабинете* のような語結合を「*у* + 生格の構文」、2), 3) の例の *в своем кабинете* や *в кабинете покойного* のような語結合を「生格の構文」と呼ぶことにし、この2つの構文の選択に影響を与える要因について調べるために、ロシア語の文学作品と会話の教科書の例やインフォーマント調査の結果を検討する¹⁾。また、上の2つの構文をまとめて「場所の所有構文」と呼ぶこととする。

2. 従来の研究

この節では、「*у* + 生格の構文」と「生格の構文」の選択に影響と与える要因と関係する2つの従来の研究を紹介する。

Мельчук 他 (1995) は、

(A) *Руки Маши дрожали.*

“マーシャの手は震えていた”

(B) *Руки у Маши дрожали.*

“マーシャの手は震えていた”

の例のように所有物が身体部分で、身体部分を示す名詞が主格であり、身体部分がテーマである場合のみを考察し、この2つの構文は多くの異なる要因の関数として分布していると述べている。そして、“*N_{gen}*” 構文と “*u+N_{gen}*” 構文の分布を決定する要因は、4つの基本的なタイプの要因：意味的要因、伝達的要因、統語的要因、文体的要因に属するとしている。(135 ページ, 141 ページ)

意味的要因のうちの1つとして、Мельчук 他 は、身体部分の固有な特質、あるいは身体部分の所有者の意志から独立した、身体部分の状態／状態の変化を動詞句が示すならば、両方の構文が可能である。そうでないなら、“*u+N_{gen}*” 構文は不可能であると述べている。(142 ページ)

伝達的要因に関しては、(A) タイプの構文と (B) タイプの構文の選択はまた、発話が身体部分により関係するか、所有者により関係するかに依存する。所有者に注意が集中するならば “*u+N_{gen}*” 構文が好まれ、そうでなければ、“*N_{gen}*” 構文が適切であると述べている。(144 ページ)

統語的要因を3つ挙げているが、その一例として、動詞句が現在時制の連辞 *быть* “...である” と長語尾の形容詞からなる句であるならば、“*N_{gen}*” 句は排除されると言っている。(146 ページ)

文体的要因に関しては、“*u+N_{gen}*” 構文は、やや口語的である。より適切に言えば、詩的でない。一方、“*N_{gen}*” 構文は、文体的に完全に中立的である。それゆえ、すべての他の要因が両

方の構文を許す文脈では、選択は文体的考慮に基づく」(147 ページ)と書いている。

Кирик (2000, 2003), Кирик 他 (2006) は, а) の例におけるように所有物と所有代名詞(あるいは生格の名詞)が表す所有者からなる名詞句を内的所有者を持つ構文, б) の例におけるように, 統語的に結びついていない所有者を表す名詞句と所有物を表す名詞句からなる構文を外的所有者を持つ構文と呼んでいる。

а) Он поцеловал ее руку.

“彼は彼女の手に口づけをした”

б) Он поцеловал у нее/ей²⁾ руку.

“彼は彼女の手に口づけをした”

Кирик はロシア語の内的所有者を持つ構文と外的所有者を持つ構文の選択には多くの要因が影響するとして, 以下のような要因を挙げている:

A) 所有者の特質

B) 文のレベルの要因

- 1) 属格構文の階層における位置
- 2) 活動体性の階層における位置
- 3) 関係の階層における位置
- 4) 役割の階層における位置
- 5) 述部の意味

B) ディスコースのレベルの要因

A) の「所有者の特質」については以下のように説明している。所有者は, 所有物と異なりふつう独立した指示を持っており, そのおかげで, 所有者はプロトタイプ的に共感の焦点という伝達上の地位と結びついている。しかしながら, 内的所有者を持つ構文では, 所有者は統語的に所有物に従属した位置を占めている。このような衝突を克服するために, 所有者が統語的に高い地位を占める外的所有者を持つ構文への所有者の上昇のメカニズムが存在する。

B) の 1) の「属格構文の階層における位置」とは, 属格構文の構成要素の間の意味関係のタイプには以下のような階層があり, 階層の上(左)の位置ほど, 外的所有者を持つ構文が現れやすいということである。

3. 2つの所有構文の選択に影響を与える要因

この節では、「y + 生格の構文」と「生格の構文」の選択に影響を与える可能性がある項目について、本稿の資料の例やインフォーマント調査の結果に基づいて検討する。

3.1. 会話の部分

「会話の部分」が2つの構文の選択に影響を与えることに関しては、第2節で述べたように Мельчук 他 (1995) は所有物が身体部分を指し、主格に立ち、テーマである「y + 生格の構文」について、「やや口語的である」と述べている。本稿の資料でも、「会話の部分」と地の部分における「y + 生格の構文」の頻度を見てみると、「会話の部分」の方が「y + 生格の構文」の頻度がいくぶん高くなっている。したがって、所有物が場所を表す場合も「y + 生格の構文」がやや口語的であると言える。

表 1

	会話の部分	地の部分	計
y + 生格の構文	81	76	157
生格の構文	57	107	164
「y + 生格の構文」の割合	59%	42%	49%

しかしながら、個々の作品を見てみると、「会話の部分」において「y + 生格の構文」をよく使う作品も、「y + 生格の構文」をあまり使わない作品もあることが分かる。

散文の文学作品である Мас では、「会話の部分」の例 21 例のうち 16 例 (76%) が「y + 生格の構文」の構文であり、「y + 生格の構文」がよく使われている。

「y + 生格の構文」の例

- 4) Держите их! У нас в доме нечистая сила! (Мас)
“彼らを捕まえて。私たちの家には魔物がいるのだ”
- 5) — Он на квартире у себя? — спросил Поплавский. — У меня срочнейшее дело.
(Мас)
“「彼は自分のアパートにいますか」 ポ普拉フスキーは尋ねた。「私は急ぎの用事があるのです」”
- 6) И в печке у меня вечно пылал огонь! (Мас)
“そして私の暖炉には永遠に火が赤々と燃えていた”

「生格の構文」の例

- 7) Точильщик. Ну, кому нужен точильщик в нашем доме? (Мас)

“研ぎ師です。でも私たちの建物で誰に研ぎ師が必要なのだろう”

会話を録音して記述した Раз でも, 「会話の部分」の例 32 例のうち 25 例 (78%) が「y + 生格の構文」である。

「y + 生格の構文」の例

- 8) А у вас в школе нету какого-нибудь эстрадного театра ³⁾ или чего-нибудь? (Раз)

“ところであなたの学校にはなんらかの軽演劇が何かないのですか”

- 9) Ну какие / какая была обувь у нас например на Руси? (Раз)

“で, たとえば我々のルーシにはどんな履物があったのだろうか”

- 10) А. Ты что его / с собой носишь?

Б. Я не с собой / а он у меня в сумке лежит// (Раз)

“А: 君はそれ (ナイフ) を身に着けているのかい”

“Б: 私は身に着けていません, それは私のカバンの中にあります”

「生格の構文」の例

- 11) По-моему кукла где-то здесь оставалась // Иди-ка посмотри в своей комнате//

(Раз)

“どうやら人形はどこかこの辺にあったようだ。自分の部屋に行ってみたら”

一方, 戯曲であり「会話の部分」が多い Вам では, 「会話の部分」の例 16 例のうち 3 例 (19%) しか「y + 生格の構文」が使われていない。

「y + 生格の構文」の例

- 12) А есть у нас в этом городе знакомые? (Вам)

“で, 我々のこの町に知り合いがいるだろうか “

「生格の構文」の例

- 13) Да, неслыханный обман. В нашем городе так не делают. (Вам)

“そう、前代未聞の詐欺だ。我々の町ではそんなことはしないよ”

- 14) Лет пятнадцать назад работал тот грешник в нашем городе в мясном магазине.
(Вам)

“15 年ほど前、この罪深い人は我々の町の肉屋で働いていた”

- 15) Сижу, бывало, в своем кабинете и думаю — я это или не я. (Вам)

“自分の事務室に座って、これは俺なのか、俺ではないのかと考えることがよくあった”

以上検討したことから、資料全体では表 1 に見られるように「会話の部分」で「y + 生格の構文」がいくぶん好まれると言える。したがって、「会話の部分」を「y + 生格の構文」が選択される傾向がある要因と認めることにする。しかしながら、作品によって「y + 生格の構文」を好んで使う作品と、「y + 生格の構文」をあまり使わない作品があることが分かる。

3.2. 活動体性の階層

Кирич 他 (2006: 40-41) は、所有者の「活動体性の階層」を表す所有者のタイプ (1: 1 人称の代名詞, 2: 2 人称の代名詞, 3: 3 人称の代名詞, HU: 人間を示している名詞句, AN: そのほかの活動体の名詞句, IN: 不活動体の名詞句, REFL: 再帰代名詞 свой) について、外的所有者を持つ構文の頻度を調べている。

2	3	HU	1	AN	IN	REFL
26.3%	26.0%	21.8%	21.1%	19.5%	5.0%	5.0%

全体として「活動体性の階層」は活動体の所有者を不活動体の所有者に対比させているとして、

$$1, 2, 3, HU, AN > IN, REFL$$

という階層を挙げている。ところで、本稿の資料では

表 2

	1	2	3	HU	IN	REFL	計
y+ 生格の構文	45	10	41	34	0	27	157
生格の構文	38	15	26	45	0	40	164
「y + 生格の構文」の割合	54%	40%	61%	43%		40%	49%

となっており、活動体を指示する再帰代名詞の場合の「y + 生格の構文」の頻度は、他の活

動体の場合の頻度とはほぼ同様であり、Кибрик 他の資料のように、活動体を指示する再帰代名詞の場合、他の活動体を指示する所有者に比べて「y + 生格の構文」の頻度が著しく低いことはなかった⁴⁾。また本稿の資料には不活動体の名詞句 (IN) が所有者になっている例はなかった。所有者が再帰代名詞で「y + 生格の構文」の例

- 16) Она была врач, известная у себя в городе... (Рак)

“彼女は自分の町では有名な医者で...”

- 17) — Он на квартире у себя?— спросил Поплавский. (Мас)

“「彼は自分のアパートにいますか」とポブラフスキーは尋ねた”

- 18) — Да, я поляк, и до прошлого года жил у себя на родине, в Польше. (Гов)

“はい、私はポーランド人です。去年までは自分の祖国、ポーランドで暮らしていました”

- 19) Председатель был у себя в кабинете один. (Рас)

“議長は自分の部屋に一人でいた”

したがって本稿の資料では、表2に見られるように、所有者の「活動体性の階層」を表す所有者のタイプの違いによる「y + 生格の構文」の割合の違いは大きくないので、「活動体性の階層」を表す所有者のタイプは2つの構文の選択に影響する要因とは認められない。

3.3. 場所を表す固有名詞

前項では所有者の活動体性の違いが2つの所有構文の選択に影響を与えるかについて見た。この項では、所有物である場所を表す名詞の種類の違いが2つの所有構文の選択に影響を与えるか検討する。場所を表す名詞を普通名詞と固有名詞に分けて、固有名詞について見てみる。

場所を表す名詞が固有名詞の例は16例であるが、そのうち「y + 生格の構文」の例は14例あった。以下の例で20)は「場所を表す固有名詞」が国を、21)は町を、22)は通りを、23)は劇場を指している例である。

「y + 生格の構文」

- 20) Мастер. Вам нравится стрижка?

Блэйк. Да. Люди моего возраста и у нас в Англии предпочитают носить короткие волосы. (Диа)

“理髪師 あなたは髪型が気に入りましたか

ブレイク はい、私の年齢の人々は私たちのイギリスでは短い髪を好みます”

- 21) — Откуда у вас такие познания по физике?

— Великолепный математик был у нас в Юрятине. (Док)

“「どうしてあなたは物理学をこんなによく知っているのですか」

「すばらしい数学の先生が私たちのユリヤーチンにいたんです”

- 22) ...у них на Садовой поселилась нечистая сила. (Мас)

“...彼らのサドーヴァヤ通りに魔物が住みついた”

- 23) //У нас тоже на Таганке// (Раз)

“私たちのタガンカ劇場でも同様です”

「生格の構文」の例は2例であり、24)は「場所を表す固有名詞」が町を、25)は映画館を指している例である。

- 24) Добра-то в нашем Чулимске. Одно комарье. (Вам)

“私たちのチュリームスクの良いところといったら、蚊がうようよいいることです”

- 25) А в нашем (ближайшем кинотеатре)⁵⁾ “Меченый атом” идет// Шпионский/ по-моему// (Раз)

“私たちの (最寄りの映画館)「標識原子」では、どうやらスパイ映画が上映されているようだ”

ここで、「場所を表す固有名詞」の場合の2つの構文の使われ方をより明らかにするために、上の20)、21)の例とそれらの例の「y + 生格の構文」を「生格の構文」に換えた例のインフォーマント調査の結果を挙げてみる。以下の答えで、一番左のインフォーマントは京都産業大学教授 Анна Куцерева 先生、左から2番目は翻訳家で編集者の Марк Гринберг さん、右から2番目は会社の教育コーディネーターである Лилия Трембовецкая さん、一番右は国立プーシキン大学大学院生 Наталья Яковлева さんである。それぞれの記号の意味は、

○ Правильное предложение “正しい文”

× Неправильное предложение “正しくない文”

△ Правильное предложение, но мы так не говорим

“正しい文であるが、そのようには言わない”

である⁶⁾。本稿では、どちらの構文の例が本稿の資料からの例であるかを示しているが、インフォーマント調査は示さずに行った。

- 20') Мастер. Вам нравится стрижка?

Блэйк. Да.

○○○○ Люди моего возраста и у нас в Англии предпочитают носить короткие волосы. (Диа.)

○××○ Люди моего возраста и в нашей Англии предпочитают носить короткие волосы.

21') — Откуда у вас такие познания по физике?

○○○○ — Великолепный математик был у нас в Юрятине. (Док.)

○××○ — Великолепный математик был в нашем Юрятине.

一番右の Наталья Яковлеваさんは、20')の「生格の構文」の例について、会話している二人がともにイギリス人であれば○である、21')の「生格の構文」の例について、会話している二人がユリヤーチンの人であれば○であるとしている。

したがって、本稿の資料とインフォーマント調査の結果から、場所を表す名詞が固有名詞の場合「y + 生格の構文」が好まれるので、「場所を表す固有名詞」は「y + 生格の構文」が選択される傾向がある要因であると言える。

3.4. 場所を表す名詞が修飾されている場合

この項では、場所を表す名詞が一致定語により修飾されている場合について見てみる。

本稿の資料では、場所を表す名詞が一致定語に修飾されている「y + 生格の構文」の例は19例、「生格の構文」の例は21例であった。本稿の資料で使われていた一致定語は性質形容詞、関係形容詞、指示代名詞、数詞であり、それぞれの場合の2つの構文の頻度を見てみると以下のようなになる⁷⁾。

表 3

	性質形容詞	関係形容詞	指示代名詞	数詞
y + 生格の構文	0	12	4	3
生格の構文	9	12	0	0

「性質形容詞が場所を表す名詞を修飾」している例は「生格の構文」の例だけであった。

26) Блэйк. Матч будет в Лужниках?

Русин. Конечно, на нашем самом большом стадионе. (Диа)

“ブレイク 試合はルージニキであるのですか

ルーシン もちろん、我々のもっとも大きな競技場です”

27) — Здравствуйте! Как вам живётся в вашей новой квартире? (Пра)

“こんにちは、あなたの新しいアパートでの生活はいかがですか”

28) Но Зоя уже не слушала и, постукивая пальчиком по пустой кровати Оглюеда, спросила... (Рак)

“しかしゾーヤはもう聴いてはなく、オグロエードの空のベッドを指でとんとんと叩きながら尋ねた...”

ここで、「性質形容詞が場所を表す名詞を修飾」している場合の2つの構文の使われ方をより明らかにするために、26) と 27) の例とそれらの例の「生格の構文」を「y + 生格の構文」に換えた例のインフォーマント調査の結果を挙げてみる。

26') Блэйк. Матч будет в Лужниках?

○ × △ △ Русин. Конечно, у нас на самом большом стадионе.

○ ○ ○ ○ Русин. Конечно, на нашем самом большом стадионе. (Диа)

27')

× △ × × — Здравствуйте! Как вам живётся у вас в новой квартире?

○ ○ ○ ○ — Здравствуйте! Как вам живётся в вашей новой квартире? (Пра)

「生格の構文」の例には全員が○を付けている。「y + 生格の構文」の例には Анна Куперева 先生が26') の例に○を付けているが、他の人は2つの例ともに×か△を付けている。

表3に示された2つの構文の頻度とインフォーマント調査の結果から、「性質形容詞が場所を表す名詞を修飾」している場合は「生格の構文」がふつう使われると言える。したがって、「性質形容詞が場所を表す名詞を修飾」することは「生格の構文」が選択される傾向がある要因であると考えられる。

ところで, Garde (1985: 193) は,

Глаза всех отяжелели “みんなのまぶたが重くなった”

У всех глаза отяжелели “みんなのまぶたが重くなった”

の例において、上の「生格の構文」の例では所有物の глаза “目” の状態が話題になっているのに対し、下の「y + 生格の構文」の例では所有者の всех “みんな” の状態が話題になっていると述べている。また第2節で挙げたように、Мельчук 他 (1995) は伝達の要因に関して、2つの構文の選択は「発話が身体部分により関係するか、所有者により関係するか」に依存する。所有者に注意が集中するならば“u+N_{gen}”構文が好まれ、そうでなければ、“N_{gen}”構文が適切で

ある」と述べている。これらのことを考慮に入れると、「性質形容詞が場所を表す名詞を修飾」する場合に「生格の構文」が使われるのは、「性質形容詞が場所を表す名詞を修飾」することにより、所有物である場所は「大きい」「新しい」「空の」のように特徴づけをされ、発話は場所により関係し、場所が注目され、話題になるからと考えられる⁸⁾。

「関係形容詞が場所を表す名詞を修飾」している場合は、「y + 生格の構文」の例も「生格の構文」の例も同じように使われていた。

「y + 生格の構文」の例

- 29) Это было то же самое, о чем думал, ворочаясь у себя на верхней полке. (Док)
 “それは、自分の上段のベッドで寝返りを打ちながら考えたのと全く同じことであつた”
- 30) Он оставлял лошадь, которую ему давали Микулицыны, на постоялом дворе у Самдевятова, читал все утро... (Док)
 “ミクーリツインが彼に貸した馬をサムデヴァートフの旅館にあずけておいて、午前中ずっと本を読んでいた...”

「生格の構文」の例

- 31) — Скажите, в вашем почтовом отделении принимают бандероли? (Пра)
 “すみませんが、あなたの郵便局では帯封を受けつけていますか”
- 32) Мита сидела в своей подлестничной каморке без окна, при электрическом свете... (Рак)
 “ミータは自分の階段下の窓のない小部屋に、電灯をつけて座っていた...”

関係形容詞の場合、所有物である場所は、「上の」「宿泊用の」「郵便の」「階段下の」のように、正確な指示を与えられるだけで、特徴づけをされないで、性質形容詞の場合のように「生格の構文」が好まれることはないと考えられる。

代名詞、数詞が場所を表す名詞を修飾している例は「y + 生格の構文」の例だけであつた。

- 33) А есть у нас в этом городе знакомые? (Вам)
 “で、我々のこの町に知り合いがいるだろうか”
- 34) Объяснимся: Степа Лиходеев, директор театра Варьете, очнулся утром у себя в той самой квартире, которую он занимал пополам с покойным Берлиозом... (Мас)
 “説明しよう。ヴァリエテ劇場の支配人スチョーパ・リホジェーエフは、故ベルリオー

ズと半分ずつ使っていたまさにこのアパートの自室で目をさましたのだ...”

- 35) — Коровьев!— вскричал Никанор Иванович.— В пятидесятой квартире у нас засел! (Мас)

“「コローヴィヨフさ」ニカノール・イワーノヴィチは大声で叫んだ。「我々の 50 号室に居座っているんだ」”

ここで、代名詞、数詞が場所を表す名詞を修飾している場合の2つの構文の使われ方を明らかにするために、上の3つの例とそれらの例の「y + 生格の構文」を「生格の構文」に換えた例のインフォーマント調査の結果を挙げてみる。

33')

○○○○ А есть у нас в этом городе знакомые? (Вам)

○××△ А есть в этом нашем городе знакомые?

×××× А есть в нашем этом городе знакомые?

- 34') Объяснимся: Степа Лиходеев, директор театра Варьете, очнулся утром

○○○○ у себя в той самой квартире, (Мас)

○××○ в той самой своей квартире,

○××× в своей той самой квартире,

которую он занимал пополам с покойным Берлиозом...

- 35') — Коровьев!— вскричал Никанор Иванович.—

○○×○ В пятидесятой квартире у нас засел! (Мас)

○×○○ В нашей пятидесятой квартире засел!

○××× В пятидесятой нашей квартире засел!

指示代名詞に関しては、表3に見られるように本稿の資料で「y + 生格の構文」だけが使われていること、インフォーマント調査の結果で「y + 生格の構文」の例にすべて○がついていること、「生格の構文」には少なくとも2人が×をつけていることから、「指示代名詞が場所を表す名詞を修飾」している場合はふつう「y + 生格の構文」が使われると考えられる。したがって、「指示代名詞が場所を表す名詞を修飾」することは「y + 生格の構文」が選択される傾向がある要因であると言える。数詞に関しては、本稿の資料の例が3例だけであること、35')のインフォーマント調査で「y + 生格の構文」の例に一人が×をつけ、上から2番目の「生格の構文」の例に3人が○を付けていることから、「数詞が場所を表す名詞を修飾」している場合に「y + 生格の構文」が使われる傾向があるとは言えない。

3.5. 動詞が表す動作

この項では、「動詞が表す動作」の違いが2つの構文の選択に影響を与えるかどうか見てみる。「動詞の表す動作」と「y + 生格の構文」の使われ方に関係することとしては、以下のようなことが言われている。Золотова (1973) は、「y + 生格の構文」と「所有の与格の構文」を、所有者と場所という関係より広い全体と部分、所有者と所有物という関係で分析し、「《y + 生格》の形は、部分を示している名詞の静的な形にさいして、存在、静的現象、場所的な、方向付けられていない動作という広い意味を持つ文に入れられる。与格の形は、部分を示す名詞の方向付けられた形にさいして、主体である所有者に向けられた動作の意味を持つ（しばしば、彼の利益になってあるいは害になってというニュアンスをともなって）文に入れられる」（310ページ）と述べている。Ваха (1974-75) も、所有物を場所に限定せずに「所有の与格の構文」と「y + 生格の構文」を分析し、「“y + 生格”の構文のもっとも特徴的な特色は、所有の与格と比較して、目的のある方向性のないことである。与格のダイナミックさが、動詞の方向づけられた動作と結びついているのに対して、生格を伴う前置詞 y のはっきりした静態性は、たいていの場合、状態の意味と結びついている。ときおり、双方の構文の相関性さえ見られる。

Он положил ей на ладонь цветок. “彼は彼女の手のひらに花を置いた”

→ Цветок лежал у нее на ладони. “花は彼女の手のひらにある”

」(131 ページ) としている。

ところで、本稿の資料にある例の動詞を「状態を表す動詞」と「動作を表す動詞」に2分して⁹⁾、それぞれの場合の「y + 生格の構文」と「生格の構文」の頻度を見ると以下ようになる。

表 4

	y + 生格の構文	生格の構文
状態を表す動詞	78	65
動作を表す動詞	69	86
状態を表す動詞の割合	53%	43%

「y + 生格の構文」の例の方が「状態を表す動詞」が使われている頻度がいくぶん高いと言える。「状態を表す動詞」と「動作を表す動詞」の場合の2つの構文の例を挙げてみる¹⁰⁾。

a) 「状態を表す動詞」が使われている「y + 生格の構文」の例

36) У нее на комодe лежал экземпляр Эрфуртской программы с надписью составителя. (Док)

“彼女のたんすの上には編者の献詞が書かれたエルフルト綱領が置かれていた”

6) 「状態を表す動詞」が使われている「生格の構文」の例

37) Только Геннадий Иванович спокойно лежит на своем месте. (Рас)

“ゲンナージー・イワーノヴィチだけが自分の座席に静かに横になっている”

в) 「動作を表す動詞」が使われている「y + 生格の構文」の例

自動詞

38) Ещё год назад он был студентом, а теперь он работает инженером у нас на заводе. (Гов)

“1年前はまだ彼は学生であったが、今は彼は私たちの工場で技師として働いている”

他動詞

39) Иностранный артист господин Воланд был любезно приглашен директором Варьете Степаном Богдановичем Лиходеевым провести время своих гастролей, примерно недельку, у него в квартире... (Мас)

“外国の魔術師ヴォランド氏はヴァリエテ劇場支配人スチェパーン・ボグダーノヴィチ・リホジェーエフによって、約1週間の客演期間を彼のアパートで過ごすように丁重に招かれた...”

г) 「動作を表す動詞」が使われている「生格の構文」の例

自動詞

40) — В котором часу начинают работать на вашем заводе? (Гов)

“何時にあなたの工場では働き始めますか”

他動詞

41) Желаю вам хорошо провести время в нашей стране. (Диа)

“あなたが私たちの国でよい時を過ごすことを望んでいます”

Ваха (1974・75) は、「所有の与格の構文」との比較において、「生格を伴う前置詞 y のはっきりした静態性は、たいていの場合、状態の意味と結びついている」と述べているが、本稿の資料では、「y + 生格の構文」の例うちの 71 例 (48%) において、動詞は動作を表わしていた。上に挙げた 38) と 39) の例以外の例を挙げてみる。

в') 「動作を表す動詞」が使われている「y + 生格の構文」の例

自動詞

- 42) Может быть, раздраженная его лаем, на весь город каркала ворона в саду у Галузиных. (Док)
 “犬の吠え声にいらだったのか、ガルージンの家の庭では、町全体に響き渡る声でカラスがかあかあと鳴いていた”
- 43) — А вы поройтесь у себя в портфеле, Никанор Иванович,— сладко предложил Коровьев. (Мас)
 “「自分の書類カバンを引っ掻き回してご覧なさい、ニカノール・イワーノヴィチ」甘ったるくコローヴィエフが提案した”

他動詞

- 44) Председатель перебирал у себя за столом бумаги и был чем-то недоволен. (Рас)
 “議長は自分の机について書類を選び分けていたが、何か不満げであった”
- 45) Он ругает себя: как это ему в голову пришло ради денег ехать в город, неужели он не мог достать их у себя в деревне? (Рас)
 “彼は自分を叱った。お金のために町に行くことをどうして考えついたのか、本当に彼は自分の村でお金を手に入れることが出来なかったのだろうか”

ところで、Золотова (1973) は《y + 生格》の形は方向付けられていない動作という意味を持つ文に入れられる、Ваха (1974-75) も“y + 生格”の構文のもっとも特徴的な特色は目的のある方向性のないことであると述べているが、本稿の資料でも「y + 生格の構文」が表している場所へ向けられている動作を表している動詞を持つ「y + 生格の構文」の例はなかった¹¹⁾。

以上のことから、「y + 生格の構文」は動作が行われる場所を表しているが、「y + 生格の構文」の場合、状態を表す例だけでなく、その場所で行われる動作を表している例も普通に使われていることが分かる。また「動詞が表す動作」と2つの構文の関係について見ると、表4から「動詞の表す動作」が動作であるか状態であるかによって、2つの構文の使われる割合にはほとんど違いがないことも分かる。したがって、「動詞の表す動作」の違いは2つの構文の選択に影響を与える要因とは認めないことにする。

3.6. 文の現実的区分の観点からの分析

この項では、文の現実的区分の観点から2つの構文の使われ方を検討する。

まず術語について簡単に説明する。Mathesius (1975) に基づいてテーマとレーマを以下のように定義する。「それについて何かが述べられる要素は発話の基盤 (basis) あるいは

テーマ (theme) と言われ、基盤について述べられることは発話の核 (nucleus) あるいはレーマ (rheme) である」(81 ページ)。文をテーマとレーマに分けることを文の現実的区分 (актуальное членение предложения) と呼ぶことにする。ロシア語では、表現上色づけされていない言葉ではテーマはレーマに先行することになる。また本稿では、「テーマ」と「すでに与えられているもの」、「レーマ」と「新しいもの」はいつも一致するわけではないという立場をとる。(Ковтунова 2002: 7, 42-47 : Крылова 他 1984: 9, 10, 207-208)。

文をテーマとレーマに分けることは必ずしも容易ではなく、どの箇所で分かれるか明らかでない例が多くあった。そこで、文のテーマとレーマへの分割が明らかな例だけを検討することにする。また本稿の資料では、所有物を表す名詞と所有者を表す名詞、代名詞がテーマとレーマの部分に別々に分かれて存在する例はほとんどなく、両者がともにテーマの部分に入っているか、レーマの部分に入っている例が大部分であった。所有物を表す名詞と所有者を表す名詞、代名詞がともに、テーマの部分に入っている例とレーマの部分に入っている例の頻度を示すと以下ようになる。

表 5

	y + 生格の構文	生格の構文	y + 生格の構文の割合
テーマの部分に入る	49	42	54%
レーマの部分に入る	78	75	51%
テーマの部分に入っている例の割合	39%	36%	

所有物を表す名詞と所有者を表す名詞、代名詞がともにテーマの部分に入っている例が、レーマの部分に入っている例より少ないが、「y + 生格の構文」と「生格の構文」の使われる割合の差はほとんどないことが分かる。また、テーマの部分でも、レーマの部分でも 2 つの構文がほぼ同じ割合で使われていることも分かる。ところで本稿では、所有物を表す名詞と所有者を表す名詞、代名詞がともにテーマの部分に入る例を分析してみることにする。まず「y + 生格の構文」の例を挙げてみる。

46) Русанов открыл глаза. Она сидела около него на постели.

— У меня в тумбочке — компот, — слабо произнес Павел Николаевич. (Рак)

“ルサノフは目を開いた。彼女は彼のそばのベッドに座っていた。

「私の脇戸棚にはコンポートがあります」弱々しくパーヴェル・ニコラーエヴィチが言った”

47) — Товарищи! — неистово закричал председатель. — Держите их! У нас в доме нечистая сила! (Мас)

“「みなさん」逆上して議長は叫んだ。「彼らを捕まえてください。私たちの建物には魔

物があるんです”

- 48) В мешке у него оставалась недоеденная краюшка хлеба, поданная в последней пройденной подгородной деревне, и кусок сала. (Док)

“彼の袋には最後に通り過ぎた近郊の村で渡された食べかけのパンの一切れと、ひとかけらのラードが残っていた”

ここで、2つの構文の使われ方を明らかにするために、これらの3つの例と、それらの例の「y + 生格の構文」を「生格の構文」に換えた例のインフォーマント調査の結果を挙げてみる。

- 46') Русанов открыл глаза. Она сидела около него на постели.

○○○○ — У меня в тумбочке — компот,— слабо произнес Павел Николаевич.
(Рак)

○○○△ — В моей тумбочке — компот,— слабо произнес Павел Николаевич.

- 47') — Товарищи!— неистово закричал председатель.— Держите их!

○○○○ У нас в доме нечистая сила! (Мас)

○○○○ В нашем доме нечистая сила!

- 48')

○○○○ В мешке у него оставалась недоеденная краюшка хлеба, поданная в последней пройденной подгородной деревне, и кусок сала. (Док)

○△○△ В его мешке оставалась недоеденная краюшка хлеба, поданная в последней пройденной подгородной деревне, и кусок сала.

「y + 生格の構文」の例には全員が○を付けている。「生格の構文」の例には×を付けている人はいないが、46')の例に一人、48')の例に二人が△を付けている。

次に「生格の構文」がテーマの部分に入っている例を挙げてみる。

- 49) В доме Громеко шли спешные сборы в дорогу. (Док)

“Громеко邸では急ぎの旅支度が進められていた”

- 50) Если ты останешься один, я перееду к тебе жить. Если ты захочешь... В вашем городе тоже есть мединститут. (Вам)

“もしもあなたが一人残されるなら、私はあなたのところに引っ越します。もしもあなたが望むならですけど ... あなたの町にも医科大学がありますし”

- 51) Трехстворчатое окно в фонаре, открытое, но задернутое шторой, светилось бешеным электрическим светом. В спальне Маргариты Николаевны горели

все огни и освещали полный беспорядок в комнате. (Мас)

“天窓の三つ開きの窓は開いていたが、カーテンが引かれ、電灯が煌々と輝いていた。
マルガリータ・ニコラエヴナの寝室ではすべての明かりがともり、部屋の大混乱を照らしていた”

ところで、2つの構文の使われ方を明らかにするために、上の3つの例とそれらの例の「生格の構文」を「y + 生格の構文」に置き換えた例のインフォーマント調査の例を挙げると以下のようなになる。

49’)

○○○△ В доме у Громеко шли спешные сборы в дорогу.

○○○○ В доме Громеко шли спешные сборы в дорогу. (Док)

50’) Если ты останешься один, я перееду к тебе жить. Если ты захочешь...

○○○○ У вас в городе тоже есть мединститут.

○○○○ В вашем городе тоже есть мединститут. (Вам)

51’) Трехстворчатое окно в фонаре, открытое, но задернутое шторой светилося бешеным электрическим светом.

○○○△ В спальне у Маргариты Николаевны горели все огни и освещали полный беспорядок в комнате.

○○○○ В спальне Маргариты Николаевны горели все огни и освещали полный беспорядок в комнате. (Мас)

「生格の構文」の例には全員が○を付けている。「y + 生格の構文」の例には×がついてはいないが、49’）と51’）の例に Наталья Яковлева さんが△を付けている。左から2番目の Марк Гринберг さんは49’）と51’）の両方の構文の例に○を付けているが、「生格の構文」の例の方がよりよく、より標準語的であると書いている。

ここで、場所を表す名詞が先行の段落ですでに述べられていることが2つの構文の選択に影響を与えるかどうかを検討するために、場所を示す名詞が、その名詞が出てきた段落かその3段落前まで（会話の場合、その会話と10会話前まで）に出てきている例を探してみると表6のようになった。

表 6

	y + 生格の構文	生格の構文
場所を表す名詞が先行の段落ですでに述べられている	8	10
それぞれの構文の例全体に対する割合	6.3%	8.5%

「y + 生格の構文」と「生格の構文」の使われる割合の差がほとんどないことが分かる¹²⁾。パーセントはテーマとレーマへの分割が明らかなそれぞれの構文の例全体に対する割合を示している。

「y + 生格の構文」の例

- 52) Напротив двери — большое окно и дверь на балкон. Всё лето у них на балконе цветут цветы. (Гов)

“ドアの向かいには大きな窓とバルコニーへ通じるドアがある。夏中彼らのバルコニーには花が咲く”

- 53) Молодой человек сидел на диване у окна, непринужденно откинувшись.
(次の段落)

У него под диваном валялось что-то вроде половой тряпки. (Док)

“若者のはのびのびともたれて、窓のそばのソファに座っていた”

“彼のソファの下には床拭き雑巾のような何かがころがっていた”

- 54) — Здравствуйте! Как вам живётся в вашей новой квартире?

— Хорошо, спасибо. Я уже привык, и мне кажется, что я живу здесь давно.

— Удобно ли вам теперь работать дома?

— Да, у меня в квартире есть кабинет, где я могу хорошо поработать и отдохнуть. (Пра)

“こんにちは。あなたの新しいアパートでの暮らしはいかがですか”

“ありがとうございます。私はもう慣れてしまって、私はここに長いこと暮らしているように思えます”

“あなたは家で仕事をするのは快適ですか”

“はい、私のアパートには、私がよく働き、休息できる書斎があります”

「生格の構文」の例

- 55) Дом, в котором они теперь живут, находится недалеко от станции метро. В их доме пять этажей. (Гов)

“彼らが今住んでいる アパート は地下鉄の駅から遠くないところにあります。彼らのアパート は 5 階建てです”

56) — О, мы с вами коллеги. Давно вы работаете на заводе?

— В должности инженера — два года. Раньше я работал в этом цехе техником. Всего я проработал на нашем заводе десять лет. (Пра)

“「おお、私とあなたは仕事仲間ですね。長いことあなたは工場で働いていますか」

「技師の仕事を 2 年していました。以前私はこの作業場で技手として働いていました。全部で私は私たちの工場で 10 年働いてきました」”

57) Потапов. Видите ли, я сосед ваш, мой номер рядом, сидел у себя, слушал, и раз — радио испортилось — на самом интересном. (7 会話後)

Потапов. Простите, но в моем номере он не работает. (Передает Виктории радиоприемник.) (Вам)

“ポターポフ あのですね、私はあなたの隣なのです。私の部屋は隣なのです。自分の部屋に座って、聴いていると急にラジオが壊れたのです。一番面白いところだね”

“ポターポフ 済みません、私の部屋でこのラジオは鳴らないのです。(ヴィクトーリヤにラジオを渡す)”

57) の例では、ホテルに泊まっているポターポフの部屋のラジオが壊れたので、隣の部屋のヴィクトーリヤのラジオを換えてもらったが、部屋の配電線が壊れていたのでそのラジオでも聴くことができず、ヴィクトーリヤに返しに来たのである。

ところで、Кибрик (2000: 444-445, 2003: 317) は、内的所有者を持つ構文と外的所有者を持つ構文の選択に影響を与えるディスコースの要因について以下のように書いている。「... 当面の文の所有者が先行のテキストによって与えられたテーマであるならば、所有者の統語的地位の上昇が望ましい。[В.Л.Крашенинников. 《Падение Серингапатама》, М.,1981: 3] からの語りの断片を検討しよう：

(29) Точка в заливе... превратилась в великолепный **фрегат** под горой вздутых парусов. На мачте **у него** реял сине-красный **флаг** святого Георгия.

“湾の中の点は ... 山のように膨らんだ帆の下に豪華なフリゲート艦に変わった。そのマストでは聖ゲオルギーの青と赤の旗がはためいていた”

第 1 の文ではエピソードの新しい参加者 — フリゲート艦が導入される。それは次の文の当面のテーマ (текущая тема) になり、同時に最初は属格名詞句 (на мачте **фрегата** “フリゲー

ト艦のマストでは”）における所有者であり、そのことが属格名詞句の分裂と所有者の地位の上昇を促進する。」

そこで、本稿の資料の例で所有者が当面のテーマになっているか調べてみると、所有者が当面のテーマになっていると考えられる例の頻度は以下の通りであった¹³⁾。「y + 生格の構文」と「生格の構文」の使われる割合の差がほとんどないことが分かる。

表 7

	y + 生格の構文	生格の構文
所有者が当面のテーマ	14	10
それぞれの構文の例全体に対する割合	11.0%	8.5%

「y + 生格の構文」の例

- 58) Что дальше происходило в квартире №.50, неизвестно, но известно, что происходило у Никанора Ивановича. Запершись у себя в уборной на крючок, он вытащил из портфеля пачку, навязанную переводчиком, и убедился в том, что в ней четыреста рублей. (Mac)

“この先 50 号室で何が起こったかは分からないが、ニカノール・イワーノヴィチに何が起こったかは明らかである。自分のトイレにカギをかけて閉じこもり、彼は書類カバンから通訳に握らせられた札束を取り出し、400 ルーブルあることを確認した”

- 59) Минутами, собравшись с силой, они начинали вырываться, извиваясь всем телом и волоча за собой висевших на них товарищей. Крючки и пуговицы у них на оде́же пообрывались, куртки и рубахи сползли с оголившихся плеч. (Док)

“時おり、力を振り絞って、全身をくねらせ、彼らにすがりついている同僚たちを引きずりながら、彼らは振り切って逃げ始めた。彼らの服のホックとボタンはちぎれ、ジャケットとシャツはむき出しになった肩からずりさがった”

「生格の構文」の例

- 60) Он явно прислушивался к своему голосу и при каждом жесте и повороте очевидно видел себя со стороны — какой он солидный, авторитетный, образованный и умный человек. В его родном ауле, о нем творили легенды, известен он был и в городе, и даже в газете о нем упоминали иногда. (Рак)

“彼は明らかに自分の声に聴きほれていて、一つ一つの身振りごとに、なんと彼は確固としていて、権威あり、教養あり、賢い人間であるかと、明らかに自分を脇から見ていた。彼の生まれ故郷の村では、彼について伝説を作り、彼は町でも有名であり、新聞でさえ彼について時おり記事を書いた”

- 61) Мы всегда интересуемся новыми спектаклями, читаем статьи и книги о театре, о наших замечательных артистах. Когда на нашем заводе открылся народный университет культуры, мы поступили на театральный факультет. (Пра)

“私たちはいつも新しい演劇に興味を持ち、劇場、私たちのすばらしい俳優についての記事や本を読みます。私たちの工場に市民教養大学が開かれたとき、私たちは演劇学部に入りました”

58) の例では Никанор Иванович が、59) の例では они が、60) の例では Он が、61) の例では Мы が当面のテーマになっていると考えられる。

この項では、文の現実的区分という観点から2つの構文の使われ方を検討した。本稿の資料では、表5に見られるように、2つの構文がテーマの部分に入る割合もテーマの部分やレーマの部分で2つの構文が使われる割合もほぼ同じであった。したがって、「場所の所有構文」がテーマの部分に入るか、レーマの部分に入るかは、2つの構文の選択に影響を与える要因とは認められない。また、表6、7に見られるように、先行の文脈で場所を表す名詞がすでに使われている場合や所有者が当面のテーマになっている場合の2つの構文の使われる割合もほぼ同じであった。

4. おわりに

Мельчук 他 (1995) は、身体部分を示す名詞が主格であり、身体部分がテーマである場合のみを考察し、“N_{gen}” 構文と “u+N_{gen}” 構文の分布を決定する要因を定めているが、Мельчук 他 の論文に対するコメントで、Daniel Weiss は「“u+S_{gen}” 構文についての可能な一般化を構想するさいの第1歩は、著者によって立てられた規則のうちのどれが主語でない統語的役割にある身体部分の指示を持つ構文に当てはまるか調べることにある」(Мельчук 他 (1995: 165)) と述べている。筆者は青木(2006)において身体部分を指す名詞が主格に立つ場合、青木(2010)において身体部分を指す名詞が主格以外に立つ場合の「y + 生格の構文」と「生格の構文」の選択に影響を与える要因を調べた。その結果、主格に立つ場合は、「y + 生格の構文」が選択されるか、選択される傾向がある要因として、「動詞 болеть」「慣用句」、「会話の部分」、「現在時制の長語尾の形容詞」という要因が、「生格の構文」が選択されるか、選択される傾向が

ある要因としては、「他動詞文」、「合成述語」、「分離していない記述的修飾語」という要因が見つかった。また、身体部分を指す名詞が主格以外に立つ場合は、「y + 生格の構文」が選択されるか、選択される傾向がある要因として、「会話の部分」、「無人称動詞の述語」という要因が、「生格の構文」が選択されるか、選択される傾向がある要因としては、「分離していない記述的修飾語」という要因が見つかった。

本稿では、いわゆる譲渡不可能所有物である身体部分ではなく、譲渡可能所有物である場所が所有物になっている「y + 生格の構文」と「生格の構文」の選択に影響を与える要因を調べた。その結果、「y + 生格の構文」が選択される傾向がある要因として「会話の部分」、「場所を表す固有名詞」、「指示代名詞が場所を表す名詞を修飾」という要因が、「生格の構文」が選択される傾向がある要因としては「性質形容詞が場所を表す名詞を修飾」という要因が見つかった。「動詞が表す動作」という項目に関しては、「y + 生格の構文」の方が「状態を表す動詞」が使われる割合がいくぶん大きい、選択に影響を与える要因とまでは言えなかった。「活動体性の階層」、「関係形容詞が場所を表す名詞を修飾」、「場所の所有構文」がテーマ（あるいはレーマ）の部分に入る」という項目も2つの構文の選択に影響を与える要因と認められなかった。

上に挙げた「会話の部分」という要因は、会話の部分では「y + 生格の構文」の割合がいくぶん高くなるという影響の強くない要因であり、「場所を表す固有名詞」、「指示代名詞が場所を表す名詞を修飾」、「性質形容詞が場所を表す名詞を修飾」という要因は該当する例が少ない要因である。したがって、多くの例は上に挙げた要因の影響を受けずに使われており、2つの構文がともに使われる文脈がかなりの割合で存在すると考えられる。このことは、第3.6項の46')から51')の例のインフォーマント調査で×を付けた一人もいなかったこと、とくに47')と50')の2つの構文の例にインフォーマント全員が○をつけたことに反映されていると言える。しかしながら、個々の例を見てみると、第3.6項の48')の例の「生格の構文」に二人が△を付け、49')と51')の「y + 生格の構文」の例に Наталья Яковлева さんが△を付けている。左から2番目の Марк Гринберг さんは49')と51')の両方の構文の例に○を付けているが、「生格の構文」の例の方がよりよく、より標準語的であると書いている。また、место という語が「場所、席」の意味を表わしている例が10例あったが、すべて「生格の構文」が使われていた。それらの例のうち1つの例のインフォーマント調査でも「y + 生格の構文」に全員が×を付けた。

62) Они возбуждены, говорят громко, и в купе становится тесно.

× × × × Только Геннадий Иванович спокойно лежит у себя на месте.

○ ○ ○ ○ Только Геннадий Иванович спокойно лежит на своем месте. (Рас)

“彼らは興奮し、大声でしゃべり、コンパートメントの中は息苦しくなる。ゲンナー
ジー・イワーノヴィチだけは自分の座席で静かに横になっている”

上で挙げたような例で一方の構文だけが使われたり、好まれたりする理由は、今回の調査では明らかにできなかった。今後さらに多くの例を集め、いろいろな観点から検討すれば、新たな2つの構文の選択に影響を与える要因が見つかると思われる。

最後に、インフォーマントに「«у нас в университете» “私たちの大学で” の構文と «в нашем университете» “私たちの大学で” の構文の間の違いを感じますか」と訊いた結果を挙げると、Анна Куцерева 先生は「私はまったく違いを感じない。これらはまったく同じである」と、Марк Гринберг さんは「この場合違いは実際的にない。より広いコンテキストでは違いが生じることがある」と、Лилия Трембовецкая さんは「この場合、これらの構文は同義的である」と、Наталья Яковлева さんは「はい、もちろん。«у нас в университете» はいくぶん横柄なニュアンスを帯びている。私だったら «в нашем университете» と言う」と答えた。

注

1) 本稿で資料として使った作品は以下のとおりである。

(Мас) Булгаков, М.	1940 Мастер и Маргарита
(Док) Пастернак, Б.	1955 Доктор Живаго
(Рак) Солженицын, А.	1968 Раковый корпус
(Рас) Распутин, В.	1967 Деньги для Марии
	1970 Последний срок
(Вам) Вампиров, А.	1966 Прощание в июне
	1968 Старший сын
	1970 Утиная охота
	1970 Провинциальные анекдоты
	1972 Прошлым летом в Чулимске
(Раз) Земская Е.А., Капанадзе, Л.А.	1978 Русская разговорная речь. Тескты. Наука.
(Гов) Хавронина, С.А.	1979 Говорите по-русски. (3-е изд.) Русский язык.
(Пра) Богатова, Г.А. и др.	1977 Практика русской разговорной речи. Русский язык.
(Диа) Щукин, А.Н.	1979 Русский язык в диалогах. (3-е изд.) Русский язык.

Мас から Рас は散文の小説、Вам は戯曲である。Раз はロシア語の会話を言語学的資料として書き取ったもので、Гов から Диа は外国人向けのロシア語会話の教科書である。

なお、本稿の例に訳をつけるに当たって、以下の翻訳を参考にした。

法本綾子訳	ミハイル・ブルガーコフ「巨匠とマルガリータ」(上・下)	群像社
江川卓訳	ボリス・パステルナーク「ドクトル・ジバゴ」(上・下)	新潮文庫
小笠原豊樹訳	ソルジェニーツィン「ガン病棟」(上・下)	新潮文庫
安岡治子訳	ラスプーチン「マリヤのための金」	群像社
宮澤俊一、五月女道子共訳	ヴァムピーロフ「去年の夏、チュリームスクで」	群像社
宮澤俊一、五月女道子共訳	ヴァムピーロフ「長男」「鴨猟」	群像社

また本稿では、他の研究者のローマナイズされたロシア語の例を引用するに当たり、ロシア文字に直して引用した。また、それらの例の下線も筆者がつけたものである。

- 2) ей は人称代名詞 она “彼女” の与格である。この例のように与格の指示対象が所有者を表す構文を本稿では「所有の与格の構文」と呼ぶことにする。
- 3) раз は会話を録音して記述した資料であり、「/」の符号は、発話（высказывание）は終わっていないが、イントネーションの点で分かれているという符号である。また、以下の 23) と 25) などの例に出てくる「//」の符号は、発話が終わったことを示す符号である。
- 4) 本稿の資料では再帰代名詞が指示する対象はすべて活動体の人間であった。再帰代名詞の場合の「y+生格の構文」の割合が他の活動体の所有者を指示する代名詞、名詞の場合の割合とほぼ同様である本稿の資料の方が、再帰代名詞の割合が著しく低い Кибрик 他 の資料より、不活動体に対比して再帰代名詞を含めて活動体をグループ化する妥当性を示している。
- 5) イタリアの部分はテキストの編者が補った部分である。
- 6) インフォーマント調査は 2012 年 9 月にメールで行った。
- 7) 所有者を表す名詞が一致定語によって修飾されている例に関しては、「y + 生格の構文」の例が 3 例（そのうち性質形容詞の例が 1 例）、「生格の構文」の例が 2 例（そのうち性質形容詞の例はなし）であり、例が少ないので本稿の資料からは有意義な結果を出すことはできない。
- 8) Мельчук 他 (1995: 146) は、次のような例を挙げて、身体部分を指示する名詞に、分離していない記述的修飾語（non-detached descriptive modifier）がついた場合には、「y + 生格の構文」は排除されると述べている。

И без того тёмные брови $\left\{ \begin{array}{c} \text{Маши} \\ *y \text{ Маши} \end{array} \right\}$ были густо накрашены.

“それでなくさえ黒っぽいマーシャの眉は濃く引かれていた”

所有物が身体部分である点では異なるが、本稿の資料で「性質形容詞が場所を表す名詞を修飾」した場合に「y + 生格の構文」が使われないことと同様なことを意味していると思われる。

- 9) 動詞が過程を表す例は少なかったため、それだけで有意義な統計的資料とならないので動作の例に含めた。形容詞、被動形動詞、述語副詞が述語になっている例や「場所の所有構文」が名詞につく例は省いた。それらの例では述語は状態を表していた。
- 10) 例を挙げるにあたって、「y + 生格の構文」の例と「生格の構文」の例で同じ動詞になるようにした。36) と 37) の例では動詞 лежать “置かれている、横になっている” が、38) と 40) の例では動詞 работать “働く” が、39) と 41) の例では動詞 провести “過ごす” が使われている。
- 11) 「y + 生格の構文」が表す場所へ向けられている動作を表す文は、以下のような「k+ 与格の構文」によって表されると考えられる。

63) К нам в институт должны приехать два аспиранта из Англии... (Диа.55)

“我々の大学にイギリスからの 2 人の大学院生が来ることになっている”

- 12) 先行の段落の範囲を、2 段落前、5 段落前と変えても、「y + 生格の構文」と「生格の構文」の例の使われる割合の差がほとんどないことには変わりはない。
- 13) 場所の所有者が「すでに与えられているもの」かどうか見てみると、「y + 生格の構文」の例 49 例中代名詞が 45 例、人名が 3 例、「生格の構文」42 例中代名詞が 31 例、人名が 9 例あり、それらは「すでに与えられているもの」であった。残りの普通名詞の場合「y + 生格の構文」の例が 1 例、「生格の構文」の例が 2 例あったが、それらの例の場合、先行の 5 段落までを調べても、その名詞は出てこなかった。

参考文献

- 青木正博 2006 「Глаза Наташи блеснули の構文と Глаза у Наташи блеснули の構文の使われ方について」『スラヴィアーナ』21: 53-71.
- 青木正博 2010 「В руке у него оказался пистолет の構文と В его руке оказался пистолет の構文の

- 使われ方」『古代ロシア研究』22: 39-57
- Garde, P. 1985 О так называемых “симпатетических” падежах в современном русском языке. *Russian Linguistics* 9: 181-196.
- Кибрик, А.Е. 2000 Внешний посессор как результат расщепления валентностей. *Слово в тексте и словаре: сборник статей к семидесятилетию академика Ю.Д.Апресяна*. 434-446. Москва: Языки русской культуры.
- Кибрик, А.Е. 2003 Внешний посессор в русском языке. *Константы и переменные языка*. 307-319. Санкт-Петербург: Алетейя.
- Кибрик, А.Е., Брыкина, М.М., Леонтьев, А.П., Хитров, А.Н. 2006 Русские посессивные конструкции в свете корпусно-статистического исследования. *Вопросы языкознания*. № 1. 16-45
- Ковтунова, И.И. 2002 *Современный русский язык: порядок слов и актуальное членение предложения*. Москва. УРСС.
- Крылова, О.А., Хавронина, С.А. 1984 *Порядок слов в русском языке*. Москва *Русский язык*.
- Mathesius, V. 1975 *A functional analysis of present day English on a general linguistic basis*. Hague-Paris: Mouton.
- Мельчук, И.А., Иорданская, Л.Н. 1995 *Glaza Maši golubye vs. Glaza u Maši golubye: choosing between two russian constructions in the domain of body parts. In: Мельчук, И.А. *Русский язык в модели «смысл ⇔ текст»*. 135-167. Москва — Вена: Языки русской культуры.
- Paykin, K., Peteghem, M.V. 2003 External vs. internal possessor structures and inalienability in Russian. *Russian Linguistics*. № 3. 329-348.
- Ваха, М. 1974/75 Дистрибуция дательного притяжательного, конструкции ”у + родительный” и родительного притяжательного в русском языке. *Sborník prací filozofické fakulty brněnské univerzity: řada jazykovědná* A 22/23: 125-135.
- Золотова, Г.А. 1973 *Очерк функционального синтаксиса русского языка*. Москва: Наука.

Factors that Influence the Choice between the Constructions “У НАС В УНИВЕРСИТЕТЕ” and “В НАШЕМ УНИВЕРСИТЕТЕ”

Masahiro AOKI

Abstract

To find the factors that influence the choice between the constructions «у нас в университете» “in our university” (“construction of y+genitive”) and «в нашем университете» “in our university” (“construction of genitive”) examples from literary works, conversation textbooks and informant answers to a survey were examined.

A) The factors that tend to influence the choice of “construction of y+genitive”:

- 1) Part of the conversation
- 2) A proper noun that expresses a place
- 3) A demonstrative pronoun modifies a noun that expresses a place

B) The “construction of genitive” tends to be chosen when:

- 1) A qualitative adjective modifies a noun that expresses a place

The items “action that a verb expresses”, “animacy hierarchy”, “relative adjective modifies a noun that expresses a place” and “possessive construction of the place enters the thematic (or rhematic) part” were not admitted as factors that influence the choice between the two constructions.

In actual use, since “possessive construction of the place” is often used without being affected by the factors mentioned above, it is thought that there is a considerable percentage of contexts in which the two constructions are both used.

Keywords: Russian, possessive construction, place, external possession, split possession